

石川自閉症啓発デー 金沢城ライトアップ計画について

— 趣意書 —

みんなでブルーライトアップ実行委員会

1 世界自閉症啓発デーの発足

カタル王国王妃の提案により、平成 19 年においての国連総会の場で、毎年 4 月 2 日を「世界自閉症啓発デー」(World Autism Awareness Day) とすることが決議され、世界中の人々に自閉症を理解してもらおうという取り組みが行われるようになりました。当初の運動は、自閉症啓発デーの日に何か青色のものを身に着け、可能な限りの青いものを持って、青いペンライトで夜を照らし、家の灯も青に変えることにより、自閉症のことを周囲の市民や地域に知ってもらおうという細やかな運動でしたが、次第にその象徴として、ランドマークの建物やタワーのブルー点灯というスタイルに変わってきて、現在に至っています。

2 日本における取り組み

上記の決議を受けて、日本では厚労省や日本自閉症協会が中心となり、発達障害を持つ子どもさんのご家族や当事者及び多くの賛同者を得ながら、毎年、4 月 2 日から 8 日を発達障害啓発週間として、東京タワーのライトアップやシンポジュームの開催等の活動がなされるようになりました。その動きが、少しずつ、全国に拡がりを見せ、昨年度は多くの都道府県や政令指定都市等でライトアップや関連する催しが行われるようになってきました。

3 石川県での取り組み

石川県では平成 20 年度から県がリードし、各関係団体や個人融資の協力を得て、県庁 18 階での作品展からスタートし、県センターによって関連講演会等を開催するようになりましたが、参加者は一部に限られていました。

しかし、多く親の会等では「自閉症やその他の発達障害のある人をはじめとして、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現」を願い続けていましたが、その願いが組織の垣根を越えて、運動するところまで達していませんでした。

昨年、それぞれの願いが有志の会という形で結びつき、「しいのき迎賓館」でのブルーライトアップを初めて実現させる事が出来ました。それぞれの団体が模索している中、金沢大学子どものこころの発達研究センター長三邊義雄教授からの「金沢でのブルーライトアップが実現できればいいね」との呼びかけがあり、これを受けて有志が集まったのです。その日は、関係者が数十人集い、それぞれ青の服やネクタイやハンカチなどの工夫をしな

がら集まりました。その集いの後、「来年もやろう」との意思一致ができました。

今年度9月から関係者がそれぞれ県に意向を伝え、調整を図ってきましたが、過日、実行委員会が開催され、その席で、石川門のブルーライトアップをできるところまで、こぎつけることができました。

前回の「しいのき迎賓館」でのブルーライトアップ経費は何とか有志での拠出金で賄いましたが、石川門ブルーライトアップになると必要経費が大幅に増加します。また、関係者が有志で出しあうだけでは、本来の趣旨と少し異なってきます。本来の趣旨は「世界中の全ての人に自閉症を理解してもらい、この運動を支えていただく」というところにあり、そこに繋がらないと運動は成功しないと考えているからです。

私たちは、これから石川県を中心に県内各市町全ての場所で、少しずつではあっても着実にこの運動が盛り上がっていくことを願っています。事実、医療の手、教育の手、福祉の手、就労の手が未だに届かない地域があり、支援の手を待っている方々がいることを知っています。

今回の石川門ブルーライトアップを実現させ、それがまた次年度にうけ繋がれて行くことで、この流れが県内各地に拡がって行くことを願っています。

ぜひ、いろいろな面でのご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

文責：中島章雄

みんなでブルーライトアップ実行委員会

実行委員長	宮下浩二（石川自閉症協会）
副代表	谷口幸代（アスペの会石川）、 山口智世（金沢エルデの会）
事務局	中島章雄（発達障害者支援センター パース）
渉外	上野幸子、岩田幸二、田川英孝
顧問	三邊義雄（金沢大学精神科主任教授）

共催：みんなでブルーライトアップ実行委員会・石川県（交渉中）・金沢市（交渉中）
石川県発達障害支援センター（確認中）・発達障害者支援センターパース
金沢大学子どもこころの発達研究センター
連合小児発達学研究所金沢校（確認中）

後援：石川県自閉症協会、NPO 法人アスペの会石川、金沢エルデの会、
石川県発達障害児・者 親の会

賛同者：県内外の団体・企業、市民有志の皆様